

交通不便解消の手段

候補	方法	メリット	デメリット・課題
①西武バスの延伸	<p>現在、台田団地が終点の路線について、団地交番前を左折し、柳瀬川通りから武蔵野線北側・南側等の道路(清瀬市道1022・1023号線)を経て国道254号線にを右折し、新座駅南口に至る路線を設ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清瀬駅から新座駅への接続は以前から需要が多く、途中の下宿地区の施設への交通手段ともなる事から、多くの利用が見込まれる。 ・バス事業者による正規のバス車両での運営であり、利用の定着や路線周辺の発展が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新座駅に至るまでに、新座市営の「にいいバス」と路線が重複する区間は、現状のままでは乗り入れが出来ない。 ・バス車両を走行させる道路幅員を確保する為、一部で拡幅工事が必要になる ・停留所の設置にあたり、幅員が狭い道路ではバスベイの設置が必要になる。
②コミュニティバスの延伸	<p>コミュニティバスを現在の路線から延伸し、小金井街道若しくはけやき通りを経由して、下宿・新座駅方面まで乗り入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車両が路線バスと比較して小型なので幅員の狭い道路も走行可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下宿に至るまでの小金井街道・けやき通り共に西武バスの既存の路線があるので、重複して路線を設ける事が出来ない。
③小型車両による新路線の増設	<p>トヨタ・ハイエース等の小型車両を清瀬駅等から、小金井街道若しくはけやき通りを経由して、下宿・新座駅方面まで乗り入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車両が路線バス・コミュニティバスと比較して小型な為、幅員の狭い道路も走行可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下宿に至るまでの小金井街道・けやき通り共に西武バスの既存の路線があるので、重複して路線を設ける事が出来ない。 ・利用者が1度に車両に乗りきれなかった場合に備え待機する予備車両が数台必要であり、コミュニティバス車両を購入するのと同等の初期費用がかかるのに加え、人件費等も相当かかる事が見込まれる。
④デマンドタクシー	<p>民間のタクシー会社の利用に対し、市が補助金を支払う。事前に利用登録した利用者が、必要に応じて乗車予約を行い、目的地まで移動する。対象者は、高齢者、障がい者、要介護等認定者、妊婦、未就学児。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の購入や停留所の設置が必要無いため、初期費用が抑えられる。 ・利用者が必要な時だけ利用できる。 ・タクシー車両を利用するので、どのような道路も走行可能。 ・乗降可能箇所を自由に設定できるため、バス路線と異なり広範な移動が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用と比例して市の費用負担が増加する。 ・利用登録可能な人の選別をどのようにするのか、公平な設定が難しい